

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

ロジスティードホールディングス株式会社（証券コード：—）

【新規】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

ロジスティード株式会社（証券コード：—）

【据置】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的
債券格付	A

■ 格付事由

- ロジスティードホールディングスは 3PL 大手のロジスティードを傘下に擁する持株会社。ロジスティードが担っていたグループ経営管理機能は 4 月 1 日付でロジスティードホールディングスに移管された。ロジスティードホールディングスとロジスティードを中核とするグループ会社との一体性は強く、ロジスティードホールディングスの格付にはグループ全体の信用力を反映させている。ロジスティードは輸送機器産業や流通産業を中心に優良顧客との長期安定した取引関係を維持している。従来から積極的に海外展開を推進しており、国内・海外一貫輸送など顧客の幅広いニーズに対する柔軟な対応力を有する。
- ロジスティードの売上の約 7 割を占める 3PL の事業基盤は堅固である。国内外の 3PL 市場の成長に加え、高度なシステム力および国内外グループ会社の強い連携を背景とした高い提案力が業績に貢献している。24 年 10 月に連結化したアルプス物流は、引き続き事業面およびコスト面でのシナジー拡大が期待される。受注拡大に伴う拠点拡充や M&A など一定規模の投資が予想されるが、アセットライト戦略を組み合わせつつ財務負担をコントロールしていく方針は変わらず、引き続き現状程度の財務健全性を維持できる見込みである。以上から、ロジスティードの格付は据え置き、見通しは安定的とした。ロジスティードホールディングスの格付はグループ一体性を考慮し、ロジスティードの格付と同格の「A」、見通しは安定的とした。
- ロジスティードの 26/3 期第 3 四半期累計の調整後営業利益は 457 億円（前年同期比 29.7%増）。好調な国内外の 3PL 事業が業績をけん引している。アルプス物流の業績寄与もみられる。適正運賃収受の進捗状況および海外の事業環境の変化による影響等を引き続き確認していくが、優良顧客との安定した取引関係の維持や新規受注の獲得、アルプス物流とのシナジー拡大、資本業務提携した日本郵便との今後の協業効果の発現等を踏まえれば、当面、業績が大きく下振れるリスクは小さい。
- ロジスティードの 26/3 期第 3 四半期末の親会社株主持分比率は 35.9%（25/3 期末同 33.6%）。財務運営方針を踏まえれば、当面現状程度の財務構成を維持していく可能性が高い。旧日立物流への TOB およびアルプス物流の買収に伴うのれんの規模が大きくなっているが、当社およびアルプス物流の業績が引き続き堅調に推移する見込みであること等を踏まえれば、現状では多額の減損損失の計上リスクは小さい。また利益蓄積による資本増強が進んでおり、リスク吸収力は高まっている。

（担当）上村 暁生・加藤 直樹

■格付対象

発行体：ロジスティードホールディングス株式会社

【新規】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

発行体：ロジスティード株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第4回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2016年9月28日	2026年9月28日	0.330%	A
第5回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2016年9月28日	2031年9月26日	0.750%	A
第7回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2018年9月4日	2028年9月4日	0.405%	A
第8回無担保社債（社債間限定同順位特約付）	100億円	2018年9月4日	2038年9月3日	0.980%	A

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年4月15日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：里川 武
主任格付アナリスト：上村 暁生
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「陸運」（2026年4月1日）、「持株会社の格付方法」（2025年4月2日）として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) ロジスティードホールディングス株式会社
ロジスティード株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル